

札幌市豊平川さけ科学館開館30周年記念誌

SAPPORO SALMON MUSEUM 30TH ANNIVERSARY



# 札幌市豊平川さけ科学館開館39周年記念誌



# 目次 content

第1章 あいさつ	3
札幌市豊平川さけ科学館開館30周年によせて 札幌市長 上田 文雄 開館30周年によせて 公益財団法人札幌市公園緑化協会 理事長 浅川 昭一郎	
第2章 グラビア	5
第3章 豊平川の未来への取り組み	16
道都を貫流する豊平川の治水 国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部札幌河川事務所 所長 大串 弘哉 生き物にやさしい川作りとは 一般社団法人流域生態研究所代表理事 妹尾 優二 河床から考える豊平川の今とこれから 北海道大学大学院地球環境科学研究院准教授 根岸 淳二郎 札幌ワイルドサーモンプロジェクトの立ち上げ 公益財団法人札幌市公園緑化協会西岡公園主任 有賀 望 サケ稚魚の定量放流から順応的管理へ 独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所主任研究員 森田 健太郎	
第4章 地域の学校や博物館、水族館、市民団体と進める活動	27
さけ科学館開館と真駒内公園小学校(母体校：真駒内曙小学校)とのかかわり、現在まで続くかかわりの歴史 札幌市立真駒内公園小学校 校長 大室 道夫	
【地域の大学との連携】 学生を連れてさけ科学館に 東海大学生物学部生物学科教授 竹中 踐 地域の大学が地域の水族館と連携する意味と理由 酪農学園大学野生動物保護管理学研究室教授 吉田 剛司	
【サケの博物館との関わり】 千歳サケのふるさと館 副館長 菊池 基弘 標津サーモン科学館 館長 市村 政樹	
【CISE ネットワークとの関わり】 北海道大学総合博物館研究支援推進員室学術研究員 菊田 融 札幌市博物館活動センター学芸員 山崎 真美 札幌市円山動物園飼育展示課飼育展示一係 朝倉 卓也 株式会社小樽水族館公社総務部総務課 古賀 崇 札幌市中央図書館 館長 江本 功	
【市民団体との関わり】 自然ウォッチングセンター代表 島田 明英 真駒内川水辺の楽校前校長 谷代 久恵 特定非営利活動法人真駒内・芸術の森緑の回廊基金代表 小林 保則 エコ・ネットワーク代表 小川 巖	
第5章 三十年の歴史	40
さけ科学館30年に至るできごとの年表 新聞報道から見る歴史 開館までの経緯～開館当時の札幌市担当職員インタビュー 札幌市南区土木部維持管理課管理係 高橋 尚己 【開館当初の職員の記録】30年前からサケとさけ科学館と関わって 小原 聡 【館長の歴史】 さけ科学館の館長について、その歴史 札幌市豊平川さけ科学館 館長 岡本 康寿 4代目のさけ科学館館長として勤めて 金田 壽夫 【ボランティアスタッフに支えられて】 橘 治国、石川 清、高尾 戸美、渡辺 恵三	
第6章 開館当初から続く役割	61
【カムバックサーモン運動】 カムバックサーモン運動とさけ科学館の使命 北海道サーモン協会代表 木村 義一 受け継がれる「サケの夢」 かじ さやか 【東白石小学校サケ学習】 グラウンドに独自のふ化施設を持つ小学校としてサケ学習を続けて 札幌市東白石小学校 小林 俊晴 【サーモンスクール事業】 さけ科学館と共に28年 札幌クラークライオンズクラブ元会長 山口 富雄 【豊平川のサケのふ化放流事業と産卵床調査】 札幌市豊平川さけ科学館主任 佐藤 信洋、公益財団法人札幌市公園緑化協会西岡公園主任 有賀 望 【開館から続く普及事業】 【展示物の推移】 札幌市豊平川さけ科学館 館長 岡本 康寿	
第7章 時代を経て広がっていくニーズ	74
【これまでさけ科学館が行ってきた調査研究リスト】 【札幌の水生生物情報拠点を目指して】 札幌の水生生物の情報拠点として、水辺の環境教育のニーズを果たすには 札幌市豊平川さけ科学館職員 前田 有里 【より参加しやすいイベントの企画】 【特別展の歴史】 札幌市豊平川さけ科学館 館長 岡本 康寿 【広く館を知ってもらうために】 キャラクターやホームページの活用 札幌市豊平川さけ科学館 館長 岡本 康寿 【札幌市豊平川さけ科学館の概要】	

## 札幌市豊平川さけ科学館 開館30周年によせて



札幌市長

上  
田  
文  
雄

190万人の市民が暮らす札幌、その中心を流れる緑豊かな母なる豊平川には、秋になると海からサケが遡上し産卵します。このサケの卵は湧きだした地下水の下でゆっくりと成長し、翌春には海へと元気に旅立ちます。都市河川で野生のサケが世代を繋いで回帰し産卵することは、世界でも稀なことです。札幌市は、ふる里に帰ってくるサケ達を、豊平川さけ科学館とともに温かく見守ってまいりました。

当館は平成26年10月に開館30周年を迎えました。開館のきっかけとなった市民運動「カムバックサーモン運動」は、水質汚染が進み、サケの姿を見かけることのなくなった豊平川に再びサケを呼び戻そうとする活動でありました。当時の市民のサケに対する熱い思いや、「サケのふ化・放流を続けるための市民のふ化場を」、また「サケについて気軽に学習できる施設を」という声を受けてこの施設は作られました。

30年の時を経て、当館の果たす役割は更に広がってきています。当館では、30年間地道に続けてきた市内の水生生物調査で培ったノウハウを背景にして、サケだけにとどまらず広く水辺の生き物や環境を学びたいという市民のニーズに応える教育学習や普及事業も行っています。札幌市は、平成25年3月に“環境都市”として生物多様性の課題に取り組む方向性や基本的な考えを示す、「生物多様性さっぽろビジョン」を策定しました。その中で、当館を生物多様性関連施設と位置づけており、河川における水生生物調査の専門性を有する市内唯一の施設として、生物多様性に関する教育や普及啓発を行う拠点となることを目指しています。

“生き物どうしのつながり”を考えると、それはとても複雑で私たちにはわからないことがたくさんあります。川で生まれ海で成長し再び川へと回帰するサケは、“つながり”をイメージするのにとても学びやすい指標となると思います。サケを入口に身近な自然環境を学ぶユニークな施設として、当館がこれからも市民に親しまれ、広く活用されることを願っています。

## 開館30周年によせて

当協会が開館当初から管理運営を担ってきた、札幌市豊平川さけ科学館（以下、さけ科学館）が、このたび30周年を迎えました。

豊平川から一時姿を消したサケを復活させようと、市民の力で始まった「カムバックサーモン運動」に端を発して、市民の要望から設置されたさけ科学館を30年の長きにわたって管理してきたことは、私たちにとって大きな喜びであり、誇りとするところです。この間、様々な形でご協力いただいた方々に、この場を借りまして御礼を申し上げます。

私たちは、札幌市の公園・緑地等を指定管理者として管理運営することを事業の柱としていますが、その中でさけ科学館は唯一、社会教育を目的とした施設に分類されます。さけ科学館はサケを通じた学びや体験の場であると同時に、観光施設として、またサケのふ化施設としての役割も担ってきました。

大都市札幌にあって、当協会では市民に身近なみどりを提供し、休養・レクリエーションの場として、公園・緑地の管理運営に努めてきました。このほか、市民のみなさまの力によって花とみどりにあふれる街を実現すべく、タウンガーデナーやボランティアの育成・サポートにも取り組んできました。

さけ科学館において、都会の水辺に暮らす様々な生き物や、それらを育む環境の大切さを市民に伝え続け、都市の中の豊かな環境を大切に思う心を培うことは、みどりを守り育てることと同じく、大きな意義のあることです。

30周年を機に、当協会ではこれまでのさけ科学館の活動を振り返り、思いをあらたに、未来に向けて豊かな環境とやさしい心にあふれる街札幌を次の世代に引き継いでいく役割を、今後もしっかりと果たしていく所存です。みなさまには引き続きご支援、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。



公益財団法人札幌市公園緑化協会  
理事長 浅川昭一郎

# グラビア

札幌市豊平川さけ科学館 1984年10月6日開館

建築家の田上義也氏の設計で、2匹のサケ稚魚が向かい合い、中央には豊平川の流れをイメージしたブルーとパープルのステンドグラスが配された印象的なデザイン。外観はログハウス調で地上1階、地下1階の構造は現在も当時のままです。市民が観察しやすいようドーナツ型に造られた回遊池（現在のかんさつ池）も同じ形で利用されています。当時のデザインには、カムバックサーモン運動の新たな出発点として、川の環境を守っていく象徴の施設となるようにという思いが込められています。



さけ科学館は、「サケの学習施設として」、また「市民のふ化場として」建設されました。

本館展示ホール奥の空間（現在は飼育展示室）は、開館当初にはサケ仔魚を飼育する養魚池が設置されていました。

地下かんさつ室には、開館年の10月にはサケ（シロザケ）のみが展示されていました。サケのシーズンオフも展示を見ていただけるよう、サケ科魚類の導入を進め、現在では約20種類のサケの仲間を観察することができます。

▶1984年サケのみが展示されていた地下かんさつ室

▼サケ科魚類の導入を進め、1986年には16種のサケ科魚類を展示した

▼本館に設置されていた養魚池





カムバックサーモン運動の当初から開催されていた、豊平川にサケの稚魚を放流する式典「豊平川サケ壮行会」は、1985年以降さけ科学館に引き継がれ、その後1988年から「サケ稚魚体験放流」と名称を変え現在まで引き継がれています。写真は1986年4月26日、サーモンスクール放流式を兼ねた第8回豊平川サケ壮行会の様子。会には板垣武四札幌市長や、カムバックサーモン運動で中心となって活躍された、吉崎昌一さん(さっぽろサケの会初代代表)も出席した。

▼板垣市長



▲吉崎昌一さん



サケや水辺の  
生き物を楽しく  
学ぶ実習は、  
今も昔も子どもたちを  
夢中にさせます。

▶1993年7月25日  
真駒内川・川の自然観察会



▶1994年10月30日  
豊平川サーモン・ウォッチング



▶1994年10月9日  
サケの採卵実習に参加する子どもたち



▼サケ稚魚の放流水路をボランティアの方々と掃除する



さけ科学館のイベント・実習は、多くのボランティアに支えられて運営しています。写真は2001年サケ稚魚体験放流の様子

▲放流するサケ稚魚を市民に配るボランティア

▼サケの海での回遊図看板の前で記念撮影するボランティアと職員



▲放流するサケ稚魚を池からすくう作業風景

◀サケ稚魚をコップに入れる作業を手伝う子どもたち



▶1993-1999年  
鴨々川鯉管理業務



▲1999年11月 岡山県のデパート（天満屋）で開催された北海道物産展におけるサケ科魚類の出張展示

## メモリアル事業

- ◀ 2004年 9月4日～9月26日  
20周年事業「さっぽろ・サケ月間」  
第1回「さっぽろサケフェスタ」9月26日
- ▼ 2003年8月24日  
累計来館者200万人達成



- ◀ 20周年事業  
「さっぽろのサケ パネル展」  
札幌市内5区の区民センターロビーで巡回展示

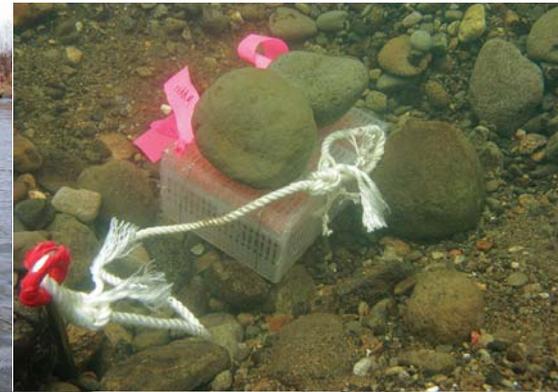


- ◀ 20周年事業  
シンポジウム  
「もっと知ろう! 考えよう! サケのこと・札幌の自然のこと」  
札幌市男女共同参画センターホールにて9月24日実施



- ◀ 2005年 さけ科学館本館展示ホール改修工事

▶2003年11月6日  
豊平川におけるサケの生残率調査  
卵の埋設



▲2004年3月28日  
豊平川におけるサケの生残率調査  
稚魚浮上の確認



▶2004年9月2日、7日  
豊平川2004年遡上サケ第1号捕獲の様子。  
この業務は毎年行っている



▶2003～2012年度  
サケ稚魚の脂びれを切って  
放流する標識放流調査。  
遡上した親ザケのホッチャレ(死体)を  
拾い、脂びれの有無を記録して  
野生魚と放流魚の割合を調べた



## メモリアル事業



- ◀ 2008年5月4日  
カムバックサーモン運動以降の  
豊平川サケ稚魚総放流数1000万尾達成
- ▼ 2013年9月23日  
さっぽろサケフェスタ10周年



- ▲ 2015年1月28日 サケ稚魚標識放流調査と「札幌ワイルドサーモンプロジェクト(swsp)」の取り組みが評価され、第6回さっぽろ環境賞優秀賞受賞

▲ 2014年11月3日 さけ科学館開館30周年記念フォーラム  
豊平川と野生サケを考える 札幌国際ビル国際ホールで開催

▼2008年7月11日  
「真駒内川ミニすいぞくかん」を  
真駒内川水辺の楽校と共同で実施



▼2010年8月18日  
札幌市公園緑化協会(さけ科学館指定管理者)と  
酪農学園大学「連携と協力に関する協定」



▼2009年12月5日～2010年2月11日  
巡回企画展  
「川と海を旅する魚たち」  
水辺の教育メディア研究会、  
埼玉県立川の博物館、  
佐賀県立宇宙科学館と  
共同で開催され、  
大学や研究機関、民間会社など  
さまざまな機関の  
バックアップ体制により開催



▲2014年9月23日  
さっぽろサケフェスタは、大学、研究機関、  
市民団体など様々な団体等とともに運営しています。  
写真中央は水産総合研究センター  
北海道区水産研究所のマスコット、ふっくん

▼2014年8月6日  
「2014サイエンスパークこどものための科学の祭典」で、  
CISEネットワークの一員としてサケトランクキットを紹介。  
リアルなサケハットを楽しそうにかぶる子ども



▲2010年7月24日～9月26日  
サケ缶誕生100周年記念展示「サケ缶に学ぶサケのひみつ展」  
マルハニチロホールディングスと共催で実施

さけ科学館は、地域の大学、市民団体、  
研究機関、地域のお祭りなど、様々な団体  
等とコラボレートした事業を行っています。





◀ 2014年7月20日

サッポロ豊平川イカダ下りの会場で  
豊平川に生息する生き物の水槽展示とタッチプールを  
出展して参加。1975年に始まった豊平川イカダ下りは、  
この年その歴史に幕を下ろした



さけ科学館は、2011年に天皇陛下、  
2004年に紀宮様にご見学いただい  
ております。

▼ 2011年9月10日 天皇陛下ご来館

さかな館では、札幌近郊に生息する  
ハゼ科魚類をととも興味深くご覧になられました



▶ 2004年2月12日 紀宮様ご来館

